

30年来活動を一緒にしてきた仲間の訃報を聞いた。葬儀は身内のみで執りおこなうと外部には通知されず、場所さえ知らない。皆でお別れしたいと各所の葬儀社に当たったら遺族の承諾がないのでお入れできませんとの事。コロナウィルスで身内さえ逢うことができず遺骨になって帰ってくる昨今。人生の最後がこのように侘しいのはやりきれない。(名華女)

8歳になった孫が成長するにつれ、互角の頭脳対決をする事がある。ある日、教えて欲しいと言われた漢字の書き順を調べていると、「ばあば、大人なのに分からないの?」そんなこと言われても、時代が…(じは)

「withコロナ」新しい生活習慣「って言われても、どうもうまくイメージできない私。今まで普通にしてきた行動を改めるって難しい。寝てる間に私の「意識改革」ってアプリがアップデートされればいいの…」(すみちゃん)

その昔「男の子だったら良かったのにねえ」とよく言われた。この物怖じしない性格のせいだと思われる。そんなこと



No.55



言われても…、私だって男に生まれたかった。が、時代と共に「女らしく男らしく」という性別の呪縛が解け、今は「女で良かった」と思う。何となく男性の方が生き辛そうに感じるから。世の男性にしてみたら「そんなこと言われても…」だよねえ。(チャーミー)

「パパはいつ赤ちゃんを産むの?」唐突に娘が言った。どうやら日々育っていくお腹の中に赤ちゃんがいると思ってる様子。「私、女の子がいいー」そんなこと言われても…この中には「いのち」という希望ではなく、「しほつ」と言つて絶望が詰まっているのです。(俺)

△ハモン博士のまとめ

そんなこと言われても…は、言われる側には「今さら」とか「困る」という意味合いが含まれるが、言う側には悪気無い場合も多い。どう返すかによりその後の会話や関係性が良くも悪くもなる。笑って聞き流せることばかりではないとは思いますが、さらっと返せないときは、一呼吸入れて、にっこりと先ずは「そんなこと言われても…」と返すことじゃ。(笑)



問合せ

大口町NPO登録団体ハモン
☎95-1691

Be Ambitious vol.316

町内にお住まいの
20代の皆さんがリレーで登場!

ガラスに魅了されて…

渡邊 明衣さん(下小口) H9・1月生



好きな事が仕事に

自宅でステンドグラスのオブジェやジュエリーを製作し作家活動をしています。主にネットでオーダーを受け、ピアスやイヤリング・ブローチなど、ひとつひとつ心をこめて作っています。ガラスは光の通りによって表情が変わり、その透過性や色、影までもが魅力的な素材。その持味を生かせるようなデザインを考えています。そして身につけた方が少しでも気分が上がり幸せな気持ちになってもらえたら嬉しいです。
作家の道へ進んだ事を普段から応援してくれている両親や友人たちにはいつも感謝していますし、作品の感想を言ってもらえる事も励みになっています。

大学時代の経験

もともと自信が持てないタイプでしたが、芸術大学での4年間で、少しずつ変化が。作品作りに没頭する日々の中でも、人前で発表する機会や展示会のピーアール、作品へのさまざまな評価など、その一つ一つの経験が自分を成長させてくれました。卒業制作の作品で賞を頂いた事も、努力を認められた事が嬉しく、大きな自信に繋がりました。
ステンドグラスを極める事になった大きなきっかけは、3年生の時のスペイン旅行。サグラダファミリアで、その美しさに魅了された衝撃を受けました。私もいつか、誰かの心を動かせるようなそんな作品を作りたいです。



▲卒業制作の作品。影の美しさを表現するのにこだわりました。姉妹校のブライトン大学賞でグランプリを受賞。